

| | | | | | |
|--------|------------|-----|-----|----|-----|
| 教科(科目) | 芸術（書道Ⅰ） | 単位数 | 2単位 | 学年 | 1学年 |
| 使用教科書 | 光村図書出版『書Ⅰ』 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

| | |
|----------------|--|
| グラデュエーション・ポリシー | <p>卒業までにこのような資質・能力を育みます。</p> <p>①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。</p> <p>②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。</p> <p>③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。</p> <p>④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。</p> |
| カリキュラム・ポリシー | <p>上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。</p> <p>①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。</p> <p>②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。</p> <p>③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。</p> <p>④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。</p> |

2 学習目標

| |
|--|
| <p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> |
|--|

3 指導の重点

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・書における幅広い表現の基礎を学び、創作活動に必要な技能を高める。 ・様々な書の表現活動を通して、書の美しさを感じ取る感性を高め、表現する楽しさや喜びを味わう。 ・表現及び鑑賞における幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 |
|---|

4 評価の観点の趣旨

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <p>・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。</p> <p>・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身に付け表現している。</p> | <p>・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p> | <p>・書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p> |

5 評価方法

| | | | |
|------|---|---|--|
| | 各観点における評価方法は次のとおりです。 | | |
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨書や鑑賞への取り組みの観察 ・ 提出作品の技能や表現の分析 ・ 提出物、ワークシートの内容の確認などから評価します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨書や発表への取り組みの観察 ・ 提出作品の技能や表現の分析 ・ 提出物、ワークシート内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析などから評価します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況 ・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 作品ファイル整理状況 ・ 振り返りシートの提出状況などから評価します。 |
| | 内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 | | |

6 学習計画

| | 単元名 | 教材名 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|------------------|--|--|---|--------|---|
| 4 | ・オリエンテーション | ・書写から書道へ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「書写」と「書道」関連及び違いについて理解する。 ・ 年間計画や用具用材・授業の取り組みについて理解する。 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品内容 (作品の分析) ・ ワークシート (記述の点検) |
| 4 5 6 7 | ・楷書の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 孔子廟堂碑 ・ 九成宮禮泉銘 ・ 雁塔聖教序 ・ 顔氏家廟碑 ・ 牛橛造像記 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 書体の変遷や楷書の古典にふれ、書の歴史と表現の広さを理解する。 ・ 楷書の古典の鑑賞と臨書を通して、用筆・運筆・字形の取り方を学び、楷書の基本的な用筆法を習得する。 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の取り組み ・ 出席状況 (行動の確認) |
| 8 | ・行書の学習 | ・蘭亭序 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 行書の古典の鑑賞と臨書を通して、用筆・運筆・字形の取り方を学び、行書の基本的な用筆法を習得する。 | 6 | |
| 9 | ・ 競書大会作品制作 | ・ 漢字 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 書体の特徴を理解し、出品作品を制作する。 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品内容 (作品の分析) |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 行書の学習 ・ 篆刻の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 風信帖 ・ 姓名印 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 蘭亭序の活動内容と同様 ・ 篆刻の用具用材・技法について理解する。 | 7 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート (記述の点検) |
| 11 | ・ 仮名の学習 | ・ 蓬萊切 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の成立や種類、単体や連綿について理解する。 ・ 古筆の鑑賞と臨書を通して、仮名の基本的な用筆法を習得する。 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の取り組み ・ 出席状況 (行動の確認) |
| 12 | ・ 実用書 | ・ 年賀状の作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの表現技法を生かし、毛筆による年賀状を作成する。 | 6 | |
| 1 | ・ 仮名の学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高野切第三種 ・ 寸松庵色紙 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の運筆のリズムをつかみ、短冊や散らし書きによる表現技法を習得する。 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品内容 (作品の分析) |
| 2 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字仮名交じりの書の学習 | ・ 作品制作 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な言葉や詩文を題材に、漢字と仮名の調和を図り、用具用材や字形、構成を工夫して作品を制作する。 ・ 自分や他の生徒の作品を鑑賞する。 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート (記述の点検) ・ 授業の取り組み ・ 出席状況 (行動の確認) |

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

毎時間、作品もしくはワークシートの提出があります。提出物の内容については指示に従い丁寧に取り組みましょう。

8 担当者からの一言

書道 I では、日本と中国の各時代の書にふれ、多様な技法や表現を学習します。人によって「いいな」と感じる感性は異なるので、様々な角度から作品のよさを味わい、自分の表現を見つけていきましょう。また、筆や硯などの用具・用材の取り扱いや後片付けも丁寧に行い、落ち着いた姿勢で授業に取り組むことが大切です。(担当：吉田香織)